

反動的均衡を、革命的な戦いの中で突破し、日本帝國主義の全面対峙をやめ、

或は空想を始めるものは、全ソ連の軍事拠点への攻撃を強め、ソ連の中可安保共議会、ソ連共産党の阻止、ソ連共産党の戦力をこち

428-21-28連戦は、反動的均衡を突破する新たな階級

の内に鉄く示した。それは、反共政治にこつて代る本格的な帝

國主義政治の登場であり、目つその打撃での小ブル政治に

代るポロニア政治の登場である。

従つて、帝國主義政治と対決しつるポロニア政治の強代と同、運動主体の側には

は、小ブルの解体に代る工場の労働者を、米帝國主義のハトナム反革命戦争

の後退し反動的和平をエスカレートした。そこで、アジア侵略革命の方向性をめぐる政治的自衛闘争の

の又しは、親米対中対決、対米自主性、対中平和共産主義の拡大しつつある。二の対立は

迎撃反露のアジア侵略革命の前線基地に於ては、一致しつつも、対米、対中南係を直接的に表現する迎撃の核の向題をめ

428-21-28連戦は、反動的均衡を突破する新たな階級

の内に鉄く示した。それは、反共政治にこつて代る本格的な帝

國主義政治の登場であり、目つその打撃での小ブル政治に

代るポロニア政治の登場である。

従つて、帝國主義政治と対決しつるポロニア政治の強代と同、運動主体の側には

は、小ブルの解体に代る工場の労働者を、米帝國主義のハトナム反革命戦争

の後退し反動的和平をエスカレートした。そこで、アジア侵略革命の方向性をめぐる政治的自衛闘争の

の又しは、親米対中対決、対米自主性、対中平和共産主義の拡大しつつある。二の対立は

迎撃反露のアジア侵略革命の前線基地に於ては、一致しつつも、対米、対中南係を直接的に表現する迎撃の核の向題をめ

428-21-28連戦は、反動的均衡を突破する新たな階級

の内に鉄く示した。それは、反共政治にこつて代る本格的な帝

國主義政治の登場であり、目つその打撃での小ブル政治に

代るポロニア政治の登場である。

従つて、帝國主義政治と対決しつるポロニア政治の強代と同、運動主体の側には

は、小ブルの解体に代る工場の労働者を、米帝國主義のハトナム反革命戦争

の後退し反動的和平をエスカレートした。そこで、アジア侵略革命の方向性をめぐる政治的自衛闘争の

の又しは、親米対中対決、対米自主性、対中平和共産主義の拡大しつつある。二の対立は

迎撃反露のアジア侵略革命の前線基地に於ては、一致しつつも、対米、対中南係を直接的に表現する迎撃の核の向題をめ

428-21-28連戦は、反動的均衡を突破する新たな階級

の内に鉄く示した。それは、反共政治にこつて代る本格的な帝

國主義政治の登場であり、目つその打撃での小ブル政治に

代るポロニア政治の登場である。

従つて、帝國主義政治と対決しつるポロニア政治の強代と同、運動主体の側には

は、小ブルの解体に代る工場の労働者を、米帝國主義のハトナム反革命戦争

の後退し反動的和平をエスカレートした。そこで、アジア侵略革命の方向性をめぐる政治的自衛闘争の

の又しは、親米対中対決、対米自主性、対中平和共産主義の拡大つつある。二の対立は

迎撃反露のアジア侵略革命の前線基地に於ては、一致しつつも、対米、対中南係を直接的に表現する迎撃の核の向題をめ

連合なき進取となり、その二の
 うの中央斗争への動向とそれを
 支える大衆斗争をつくり出す
 こととなる。この地区反戦の機
 能を、南條がもたらすものと
 して、生産管理への不断な発展
 への二つの面がある。

以上の方向へ、全労働一団
 連合の発展を志向するものとして
 一、全労働一団の戦闘性
 二、全労働一団の政治的
 三、全労働一団の経済的
 四、全労働一団の社会的

(五)

以上の四つの方向は、全労働一団の
 日本帝国主義のマルクス主義
 的斗争の発展を促進するもの
 である。この斗争の発展は、
 全労働一団の政治的、経済的、
 社会的、文化的な発展を促進
 するものである。

この斗争の発展は、全労働一団の
 政治的、経済的、社会的、
 文化的な発展を促進するもの
 である。

全労働一団の政治的、経済的、
 社会的、文化的な発展を促進
 するものである。この斗争の
 発展は、全労働一団の政治的、
 経済的、社会的、文化的な
 発展を促進するものである。

全労働一団の政治的、経済的、
 社会的、文化的な発展を促進
 するものである。この斗争の
 発展は、全労働一団の政治的、
 経済的、社会的、文化的な
 発展を促進するものである。

全労働一団の政治的、経済的、
 社会的、文化的な発展を促進
 するものである。この斗争の
 発展は、全労働一団の政治的、
 経済的、社会的、文化的な
 発展を促進するものである。

515 全労働一団統一行動
 515 20 不明確、日保政議
 会
 南條
 日田一外務省中央斗争
 全労働一団